

御製 五首

平成十五年

入院の日々に

入院の我を氣遣ひ訪ひくれし思ひうれしく記帳簿を見る

東京大学医学部附属病院を退院して

もどり来し宮居の庭は春めきて我妹と出でてふきのたう摘む

有珠山噴火災害の地を訪れて

一すぢの煙残して静まれる有珠山に人ら登り行く見ゆ

軽井沢町大日向開拓地

開拓につくしし人ら訪ひ来れば雲を頂く浅間山見ゆ

両陛下は皇太子時代の軽井沢ご滞在中、満州からの引揚者による大日向開拓地をよく訪ねていらつしやつた。この御製は、今年の軽井沢ご滞在中に同地をご訪問になったときのものである。

奄美大島訪問

復歸より五十年経るを祝ひたる式典に響く島唄の声

第五十四回全国植樹祭

千葉県

うぐひすの鳴く会場に妹いもと来て楨まきとつばきの苗植まき系いもにけり

第五十八回国民体育大会秋季大会

静岡県

会場の緑の芝に集ひたる二千余人の演技に見入る

第二十三回全国豊かな海づくり大会

島根県

旗を立て我が前を行く漁船いせりぶね浜田漁港をつらなり出づる

皇后陛下御歌 三首

平成十五年

春

癒えましし君が片へに若菜つむ幸おほけなく春を迎ふる

おほけなく
「もつたいない程に有難く」という、感謝のお気持ちを云われている。

出雲大社に詣でて

国譲り祀られましし大神の奇しき御業を偲びて止まず

国つ神大国主命が天つ神に国を譲り、自らは出雲に祀られて、国と人々の安寧を護られている神秘に思い馳せてお詠みになっている。

日本復帰五十年を迎へし奄美にて

紫の横雲なびき群島に新しき朝今し明けゆく

奄美群島日本復帰五十周年の式典にご出席になった翌早朝、両陛下は笠利町の宿舎に隣接する土盛海岸にお出ましになり、日の出をご覧になったその折の御歌である。